



## 田地子区の取り組み

インタビュー 代表：本田 義章

建部学区情報	世帯数	1,422 世帯	人口	3,002 人	高齢化率	41.9%
--------	-----	----------	----	---------	------	-------

### ■田地子地域は

旭川の支流、田地子川流域に開けた村で、典型的な中山間地域です。

歴史は古く多自枯鴨神社は西暦 659 年に勧進。江戸時代には 66 戸、338 人が住む村でしたが、現在は 40 戸、89 人で高齢化率 50%、少子高齢化と人口減少が一番の悩みです。

小地域	戸数	人数	一人暮らし
大穴	8	11	2
上中村	6	15	2
下中村	6	20	1
上久津辺	8	15	2
下久津辺	12	28	2
計	40	89	9

### ■主要な活動

“元気な高齢者づくり&絆づくり”を中心とした取り組み

#### ●田地子ふれあい健康教室

区、愛育委員、栄養委員、民生委員はフォロー役としてサポートし、老人クラブ役員が中心となって年 8 回の「ふれあい健康教室」を運営しています。

場 所：田地子公会堂、広場、神社境内

参加者：25 人～35 人

参加費：内容によっては 100 円程度



### 《今年度の実施計画》

田地子ふれあい健康教室	
4 月	お花見(中止)
6 月	体操、防災訓練、懇談(中止)
8 月	夏祭り
9 月	敬老会(お祝い)
11 月	防災教室(火災予防)
12 月	お飾りづくり
1 月	とんど祭り
2 月	健康ウォーキング

### ■現在の課題

田地子区は大きく 5 つの地域で構成しています。かつては小地域で集まる機会が多ありましたが、お互いにお世話が難しくなり、各地区での毎月の集まりごとが少なくなりました。

さらに、70 歳まで働く人も増えて、隣同士でも会う機会が少なくなり、お互いの意思疎通、連携、絆が弱くなっています。

一人暮らし高齢者も年々増えています。



(2018 年秋季例大祭御神幸出発前)

## ●サロン多自枯

6年くらい前に「サロン多自枯」が誕生しました。月2回、自由な発想で展開（料理教室、小物づくり、花壇づくり等）しており、様々な方が参加しています。

写真の子袋は、材料を持ち寄り、サロンに参加した人たちが作った「緊急避難時用の小物入れ」です。袋の中には、緊急時の「非常持ち出し」のメモも入れて全戸に配布しました。良く目立つので便利です。

場 所：田地子公会堂

日 時：毎月第1・3火曜日 9:00~14:00

参加者：6人~10人

料 金：材料費を皆で出し合う。



緊急避難時用の小物入れ



花壇づくりの様子

## ■イベントの開催において留意していること

コロナ禍でも開催できるよう、下記を実施。

○参加時の検温。

○マスクの着用と手洗いの徹底。

○入室時は必ず消毒。

○間隔をあけて座る。

○30分おきに空気の入れ替え。

○使ったイス、テーブルは必ず消毒。etc

## ■地域内で特に気を付けていること

若い人が、高齢者が一人で不安そうに歩いているのを見かけました。

「困っているのでは？」と声を掛けようと思いましたが、どこに連絡していいかわかりませんでした。その時に、「連絡先が分かれば何かあった時に協力できるのに」と言われたことがきっかけで「緊急連絡先」を作成し、全戸に配布をしています。

今年も6月の防災教室が開けなかったため、豪雨災害や地震などで危険が迫っている時の留意点や備えについて文書でお願いしました。

各地区内での情報把握をしっかりと行い、適切な対応がとれるよう心がけています。

## ●災害時や困ったときの「緊急連絡先」の配布

困った時の「緊急連絡先」



地区	氏名	固定電話	携帯電話
大穴	本田 義章		
上中村	藤元 博子		
下中村	行森 重人		
上久津辺	田原小士郎		
下久津辺	河原 浩一		
〃	葛原 剛		

助け合いで明るい地域づくり  
 一日々の生活の中で  
 ○異常を発見した時  
 ポストに郵便物等があふれている。  
 最近見かけない！

一大規模災害が起きそうな時—  
 ○災害（大雨や地震）の時、  
 避難した方がいいか？  
 どこに避難したらいいか？  
 ○避難しようにも歩けない！

（今年6月の防災教室の代わりとして作成）

## ■今後について

家の中や周辺の手入れが思うようにできない家庭が増えそうで、この対策と共に若者が住みたいと思う村づくりも大切です。

皆で知恵を出し合い、温かい気持ちで支え合い、協力して課題解決ができればと思います。